

2024年度は、メディア表現基礎2（理解）、メディア表現特論D（装置）、制作演習C（造形）の各授業を担当し、プロジェクト実習では運動体設計プロジェクトに参加した。また、学生委員会の委員長を務めた。学内外での制作・展示活動等について下記にそれぞれ記す。

学内外での活動（展示その他）

1 「遍在、不死、メタモルフォーゼ」（瑞雲庵、2024年4月27日～5月26日）

本学の久保美紀准教授がキュレーションする展覧会に参加し、上賀茂地区にある古民家の屋根裏に作品《LOST#20》を制作した。不定形の空間に沿うように日用品を配置し、物の影が展開する構成を試みた。
関連リンク：<https://artsensibilisation.com/>



《LOST#20》日用品・鉄道模型・LED 7780 × 3859mm

2 「ゆめプラの『旅』と『ものがたり』」（ゆめたろうプラザ、2024年8月24～9月8日）

武豊町の文化施設で作品《LOST#9 remix》の展示を行った。2013年にも同所で展示をしており、今回はその時の作品の「リミックス」として、同じモチーフを使いながら要素を追加するなどの工夫を加えた。
関連リンク：https://yumetarou-kaikan.net/event_info/event_info-3132/

3 「光と影の不思議展」（浜田市世界こども美術館、2024年10月12日～2025年1月13日）

島根県浜田市の文化施設で作品《10番目の鑑賞（点・線・面）》の展示を行った。
関連リンク：<https://www.hamada-kodomo-art.com/exhibition/past/kikaku2024/light-and-shadow/>

4 「南飛驒 Art Discovery」 (南飛驒健康増進センター、2024年10月19日～11月24日)

北川フラム氏がディレクションを務める芸術祭に参加し、下呂市にある南飛驒健康増進センターでインスタレーション《仮想温泉》を制作した。地元の人々の話し声と温泉の湯音を光によって伝送し、骨伝導ヘッドフォンを通じて聴くことで、立体的に音空間を分け入る体験を生み出した。本企画は国民文化祭の一環として開催された。

関連リンク：<https://minamihida-art-discovery.pref.gifu.lg.jp/>



《仮想温泉》サウンドデバイス、骨伝導ヘッドフォン、スモーク

5

「DX時代のメディア表現——新しい日常から芸術を思考する」
(ソフトピアジャパン・ワークショップ24、2024年11月1日～7日)

本学の松井茂教授がキュレーションする展覧会に参加し、本学と同じ建物内にある宿泊施設を会場に作品を展示した。2006年制作の《プリペアド・ラジオ》と、新作《日本のいちばん大きい碑》に加え、Archival Archotypingプロジェクトで制作した《モランディの部屋》(2019-2020)も出品した。本企画は国民文化祭の一環として開催された。

関連リンク：<https://www.iamas.ac.jp/newnormal/>

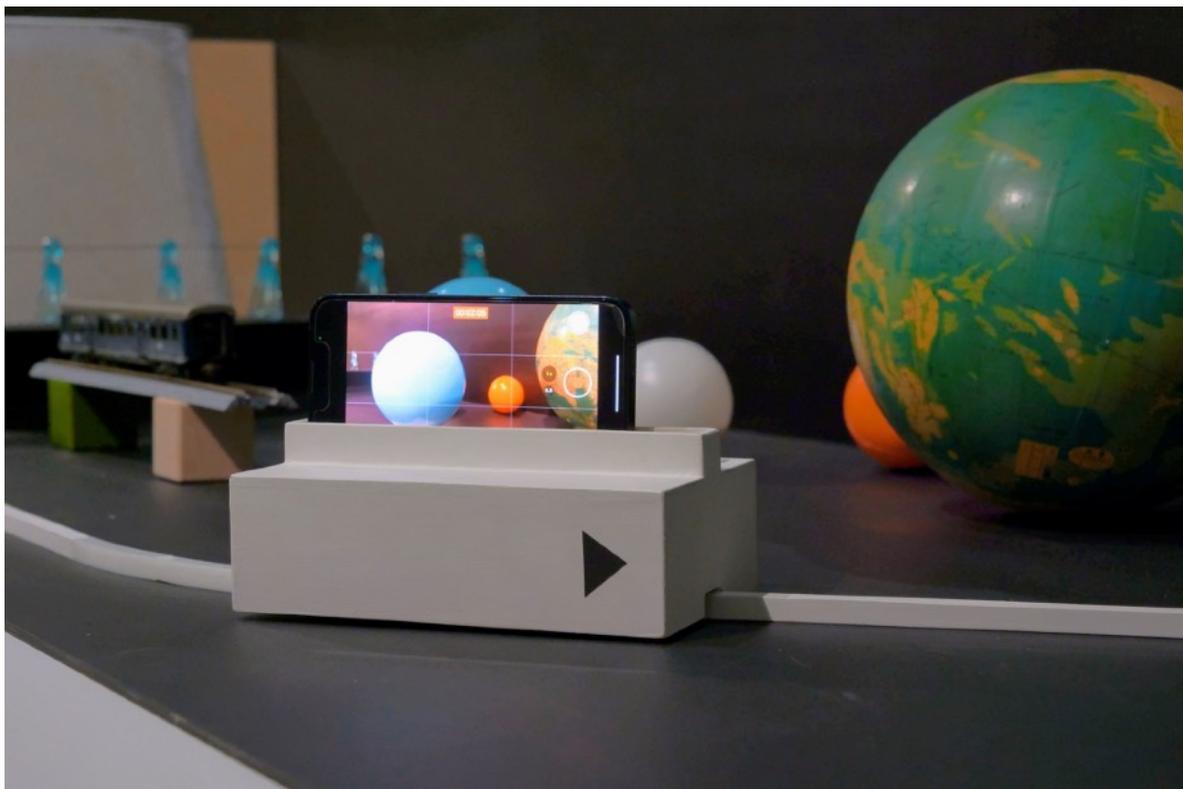


《日本のいちばん大きい碑》*8点加工写真のうちの1点

6 「スイトピア×イアマス連携展示 うごキズム ～うごく・うごかす・うごきをみる～」
(大垣市スイトピアセンター アートギャラリー、2024年9月28日～11月4日)

運動体設計プロジェクトの一環として、大垣市の施設で展示を行った。来場者が自身のスマートフォンを使って動画を撮影する作品形式「スマホスタジオ」を構築し、その枠組みの中で、学生と筆者がそれぞれ個別の作品を制作した。本は大垣市スイトピアセンターとの連携企画として実施された。

関連リンク：https://www2.og-bunka.or.jp/event/data_1352.html



《スマホスタジオ》筆者の作例